

2020 年度事業ならびに活動報告

特定非営利活動法人 安全工学会

定款第3条(目的)

この法人は、主として産業に関わる安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図り、もって産業及び學術の發展並びに社会の安全安心の獲得に貢献することを目的とする。

2020 年度は本格化した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大に、世界中が、社会全体が、大きな影響を受けた。この拡大防止と罹患抑止が、すべての学会活動の前提条件となった。

1. 事業活動報告

2020 年度は、これまでの様々な会議体での議論を通じて得られた 6 つの要点、

- (1) 教育
- (2) 継続的ビジョンの見直し&設定 (システム)
- (3) 研究会企画
- (4) 防災と安全工学
- (5) 化学プロセス安全
- (6) 学会収支 (社会貢献の指標として)

に対して得られた 2019 年度の成果 (産業防災研究会の立ち上げ、安全工学会将来構想研究会の準備など) を受け、(3) 研究会企画の遂行に努めた ((4) 産業防災/6 回、医療安全/1 回開催、いずれも Web 開催)。

2018 年に掲げた 4 つの目標 (安全工学, Vol. 57, No. 4, 271) は、

- ・ AI、IoT における事故 (→(3)、(5) など)
- ・ 変化する天災対応と予測 (→(3)、(4) など)
- ・ ますます複雑化する人間行動 (→(2)、(3)、(5) など)
- ・ 企業における安全のプロ、リーダーの育成と役割向上 (CSO 提唱)

(→(1), (2), (5), (6) など)

今後、矢印に示したように、上記(1)～(6)の項目に包含される形で検討されてゆくことになった。

(5)については 2020 プロセス安全シンポジウムを開催し今後も継続の方向とし、(1)、(2)、(6)については、COVID-19 による対面打ち合わせの困難があり、具体的な進捗は乏しかった。

具体的には、『(1)教育』については、企画委員会がマイルストーンを作成し、実行にあたっては学術委員会が遂行することが決まった（第 293 回（2019/7/12）及び 294 回（2019/11/13）理事会）が、両委員会の情報共有と意思疎通の段階で、コロナ禍が起こり停滞した。Web 会議などの方法で打開を図った（CSO の具現化など）。

『(2)継続的（学会）Vision の見直&設定（システム）』については、理事会に加え、企画委員会を介して提言を行う若手学会員を核とした安全工学会将来構想研究会が発足した。Web 会議の運営技量向上を得て、若手メンバーの研鑽・情報交換の場として、具体的な問題提起や提言の発信を目指した。

『(3)研究会・研究部会の企画』については、前述の(1)～(6)の要点の検討中で、手段の一つとして効率的に（トップダウン型／産業防災研究会など）、またより広い会員からの発意を組み上げる形で（ボトムアップ型／医療安全研究会など）、運用を活性化し、展開した。

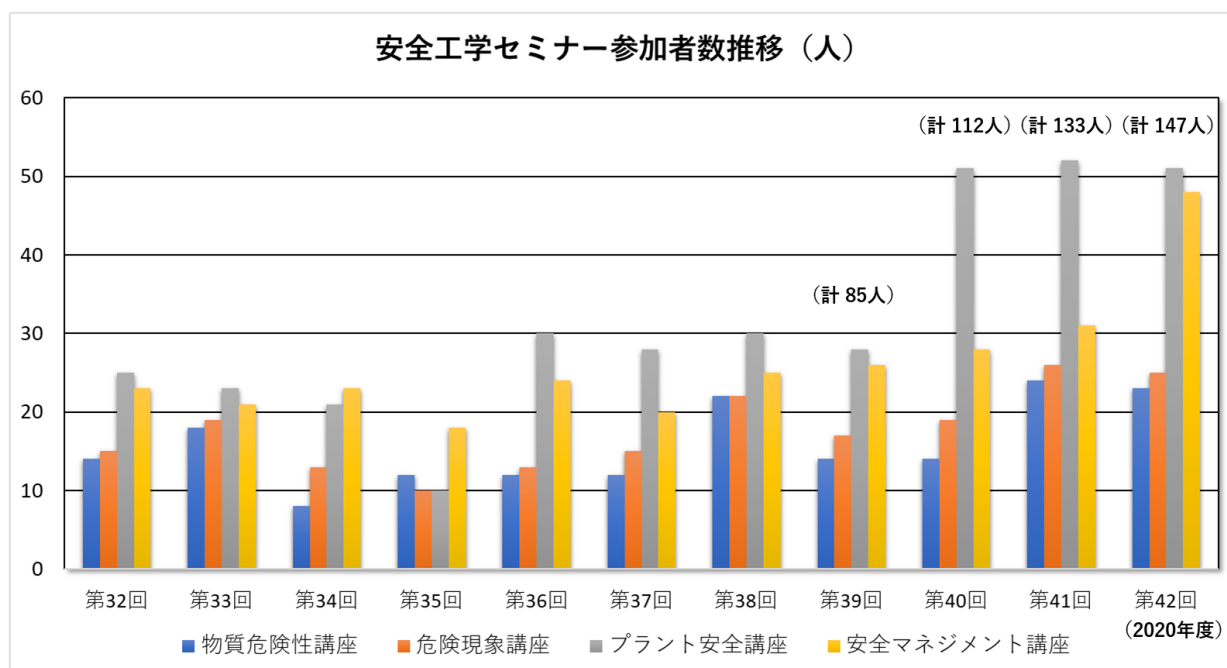
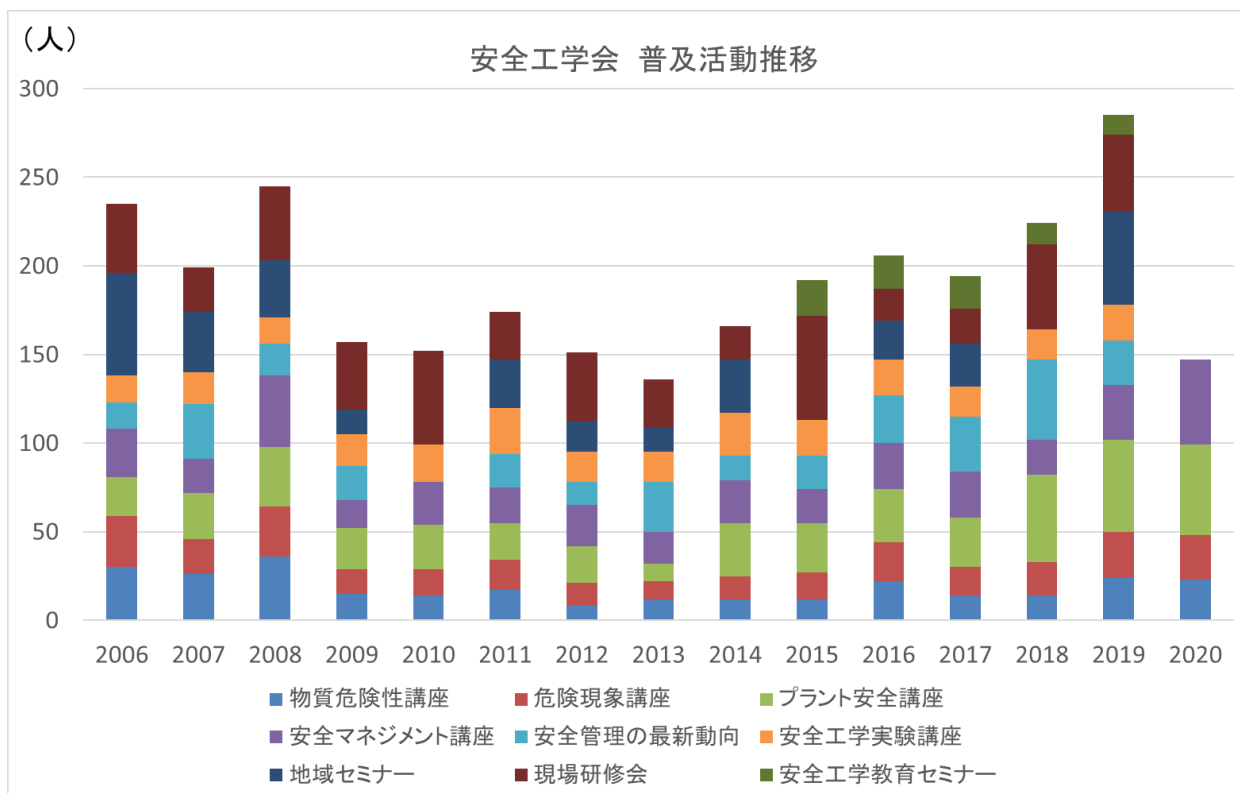
『(4)防災と安全工学』については、前記のように産業防災研究会を立ち上げた。

『(5)化学プロセス安全』については、2017 年の CCPS の GSPS の開催を機に、2018 年岡山、2019 年四日市と開催してきたプロセス安全シンポジウムを、2020 年度も継続して開催（Web／研究発表会と合同開催）した。「学」界を交え、現場の実際の安全について情報を交換し、相互に啓発し研鑽を積む貴重な場を、継続して提供した。

『(6)学会収支（社会貢献の指標）』については、総務委員会を軸に、消費税 10%化を踏まえて、会費の適正化を軸に検討してきたが、さらに学会の付加価値の在り方を加味して検討する方向が提示され、仕切り直しを図り検討した。

2020 年度の学会の研究教育事業は、COVID-19 の広がりでも困難な環境下、7 月の安全工学シンポジウムは希望講演に減縮し Web 開催することが強いられた（安全工学会より 4 講演 1 セッション）が、12 月初頭の第 53 回安全工学研究発表会と 2020 プロセス安全シンポジウム（2020PSS）は、Web 上（Webex 使用）だが、当初予定した規模で合同開催することができた（各々 200 名ほどの参加で計 400 余名／計 73 講演）。

2020 年度の学会の普及啓発事業は、COVID-19 拡大防止を第一に、可能な範囲で Web 開催を中心に進めた。残念なことだが、安全工学実験講座、同現場研修会、同地域セミナー、災害事例研究会は実施することができなかった。一方、安全工学セミナーは、物質危険性、危険現象、プラント安全、安全マネジメントの 4 講座を Web 開催することができ、移動経費、旅費宿泊費がなく、聴講者の拘束時間が短い Web の利点もあり、多くの聴講者を得ることができた（対 2018 年で 131%、2019 年で 111%／147 人）。



安全管理の最新動向は、内容の更新時期が重なり、開催が遅れた（2021年度へ）。

Web 開催の強みを取り入れながら、状況に応じた修正を適切に加えることに務めた。また周辺学協会や工業協会との連携を図ったが、一歩進んで、他学会との共同企画の推進など、横串学会の真価を発揮するには至らなかった。

安全工学会誌は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発

信の場として、重要な役割を果たしてきた。2020年、第59巻は、論文9報、特集「ICTと安全をつなぐ架け橋」など、計437頁の構成となった。非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在といえ、オンライン英文雑誌（電子ジャーナル）の創設について検討を進めた。

2020年度の学会の研究奨励・表彰事業は、これまでの玉置功労賞・北川学術賞、論文賞に加え、2019年度に続き、優秀・学生講演賞（研究発表会での発表技術を表彰する）と、学術技術奨励賞を検討した。残念ながら、優秀講演賞及び学術技術奨励賞の該当者がなかった。若手及び中堅の会員の奨励を継続して推進し、賞の定着につとめることの重要性が伺われた。

2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に、これまでの医療安全研究会に加え、産業防災研究会が立ち上がり活動を推進した。医療安全研究会は、第53回研究発表会／2020PSS 合同パネルディスカッション「コロナ禍の現状と克服に向けて」のメインパネラー招請に貢献し、産業防災研究会もパンデミックに対する産業界の対応状況の収集について検討を進めた（委員会7回開催）。

② 安全工学シンポジウム 2020

安全工学を軸とし、34学会が会した横断的な研究発表会。今回はCOVID-19拡大の状況に配慮し、希望講演に縮小しWeb開催した（安全工学会から4講演／1セッションの参加）。

開催月日：2020年7月1日（水）～2日（木）

開催場所：COVID-19に配慮しWeb開催（Zoom／自所）

参加者数：未公表名

主 催：日本学術会議

幹事学会：日本化学会

共 催：安全工学会ほか33学協会

③ 安全工学研究発表会（第53回）

及び2020 プロセス安全シンポジウム

合同開催により相互交流の促進を目指す（Web開催）。

開催月日：2020年12月3日（木）～4日（金）

開催場所：Web開催（機械振興会館に発信センター設置）

発表件数：計73件（研究発表会／61件、2020 PSS／12件）

参加者数：計 400 名（研究発表会／196 名、PSS／200 名、他／4 名）

④ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会 5/12～15(回議)、10/26(Web)、12/21(Web)、計 3 回

安全工学研究発表実行委員会 5/25、7/6、12/21、計 3 回(Web)

医療安全研究会 (2020 PSS PD メインパネー関連) 計 1 回

産業防災研究会 1/22、2/4、2/9、2/18、2/25、3/5、3/18 計 7 回

新規研究会の立ち上げ

2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌“安全工学”

① 発行 印刷物の発行 年 6 回(第 59 巻／計 437 ページ)

② 電子化推進

J-stage の公開 2016 年 6 月発行分～、逐次更新中

(2) 講習会・セミナー

① 第 20 回安全工学地域セミナー

開催月日：

開催場所： COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

参加者数：

② 第 19 回安全工学実験講座

開催月日：

開催場所： COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

参加者数：

③ 第 34 回安全管理の最新動向講習会

開催月日：

開催場所： COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

参加者数： (関西大学教授 中村隆宏氏を主査に)

④ 第 42 回安全工学セミナー

物質危険性講座 2020 年 8 月 27 日(木)～28 日(金)

危険現象講座 2020 年 10 月 22 日(木)～23 日(金)

プラント安全講座 2020 年 11 月 11 日(水)～12 日(木)

安全マネジメント講座 2021 年 1 月 28 日(木)～29 日(金)

開催場所：Web 開催 (学会事務局入居ビルに発信センター設置)

参加者数：各回 23 人～51 人 計 147 人

⑤ 災害事例研究会

COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

(本年度は候補の調整にとどまる)

⑥ 地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣

計 2 件(Web)

⑦ 安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進

開催月日：

開催場所： COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

参加者数：

⑧ 事業所長懇談会の定期的開催

石化協と共催による地域毎の工場長・環境安全部長との懇談会推進はおおよそ全国を一巡し、次企画を検討中。

⑨ 普及啓発事業管理

・対象委員会・研究会等

編集委員会

(各月)

計 1 2 回

普及委員会

(8/20)

計 1 回

・会誌への広告募集管理

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

学会事務局にて図書販売等を実施する

(安全工学便覧 第 4 版 販売開始)

2.2.2 普及啓発事業：受託事業

行政官庁（経済産業省等）の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する。今年度は進展なし。

2. 3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行った（「掲示板・記事」欄の「会員からの声」に「新型コロナ」に係る発信欄を配置し、まずは事務局長判断で掲載してゆく運営を開始（掲載 3 件）。継続して、周辺学会や、非会員への「安全工学会」の PR を推進した（催事の情宣依頼など）。

2. 4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

従来、学会賞として、玉置功労賞、北川学術賞、論文賞、奨励賞の 4 賞を授与し、奨励、表彰を行ってきたが、賞の内容、審査決定時期、形態について、実態に即して見直しを行なった。2019 年度に、奨励賞を改定し、研究発表会での発表を評価し奨励表彰する「優秀・学生講演賞」と、中堅研究者を奨励表彰する学術技術奨励賞とを創設し、2020 年度も、玉置功労賞・北川学術賞、論文賞と合わせて授与した（11/11 に授与式を独立実施、於、学会事務局入居ビル 7 階会議室）。

2. 5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に、安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES (Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合) に参加 (継続)、APSS、CCPS、ICSI との情報交換を継続、発展させる。

① 諸会費

(社) 日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入 (継続)

② 安全工学シンポジウム 2020 他、周辺学会との交流

③ 防災学術連携体への参加を継続し、接点を模索した。

④ 化学工学会、石油化学工業協会、日本化学工業協会などとの連携を推進。

2. 6 管理業務

① 総会 1 回開催

開催月日：2020 年 5 月 29 日 (金)

開催場所：総会資料事前配布と表決票による文書開催

② 理事会 5 回開催

開催月日：2020 年 4 月 30 日 (木) 第 296 回 (文書開催)

2020 年 6 月 8 日 (月) 第 297 回 (文書開催)

2020 年 7 月 22 日 (水) 第 298 回 (Web 開催)

2020 年 11 月 4 日 (水) 第 299 回 (Web 開催)

2021 年 3 月 26 日 (金) 第 300 回 (Web 開催)

③ 評議員会 1 回開催

開催月日：2020 年 5 月～29 日 (金) (文書開催)

④ 監事会 1 回開催

開催月日：2020 年 4 月 23 日 (木) (Web 開催)

⑤ 委員会

総務委員会 COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

企画委員会 COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

アドバイザーボード COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

⑥ 現場研修会 2 回開催予定

COVID-19 の状況に配慮し実施繰り延べ

以上